

ふるさと再発見

水権現の力石

寛政四年（1792年）眉山の崩壊による寛政の地変、いわゆる島原大変の影響で中木場村（今の安中地区の西側）の水源が枯れてしまいました。

村の庄屋下田吉兵衛は水を得ようとあちこち掘りますが一向に水は出ません。ある夜、吉兵衛は夢の中で水源の夢を見て、次の日早速、その場所を訪れると夢のとおり水が湧いていました。そこで、村人とともにお金を出し合い、協力して作業をして約5・8キロメートルの水道を造りました。文政四年（1821年）のことで、現在、天満神社などで見られる水路「清水川」がそれです。

大下町にある「水権現」は、この水の恵みに感謝するため大下南地区の住民により祀られています。



例祭は毎年2月4日で、しめ縄を直し祝詞をあげ直会なおひを行なうものですが最近では4日前後の日曜に行なわれています。境内には大（130キロ）、中（96キロ）、小（81・7キロ）の三個の丸い石が並べてありますが、これが力石でそれぞれ八斗石・六斗石・四斗石と呼ばれていました。江戸時代から大正時代までは、例祭を盛り上げるため力石持ち上げの演技が行なわれ、力自慢の若者たちが力比べを行なっていたそうです。

これらの石は、往時の農村習俗を表すものとして貴重であることから、平成11年に市の有形民俗文化財に指定されています。

クローズ アップ Close Up!

「島原七万石を踊る会」

今回紹介するのは、島原地方で古くから伝えられている舞踊「島原七万石を踊る会」の皆さんです。

この会は約2年前に結成され最初は5人からスタートしたそうですが、踊りを披露するたびに、小さい時に聞きなれた音色と艶やかな踊りに魅入られた人が参加し、現在のメンバーは指導者兼代表の松尾美英子さんを始め38人となり、毎月数回の練習をしているそうです。

出で立ちは島原藩主松平家紋の重ね扇が入った着物に、帯には小太刀と印籠を携え、笠を



豊後高田市親善訪問団歓迎交流会での披露

目深にかぶり顔を見せずに踊るのが特徴です。

皆さんにお話をお伺いすると「自分が小さい時、憧れていた踊りが踊れて嬉しい」、「こんな素晴らしい踊りを眠らせておくのはもったいない」、「美容と健康のため」、「全国各地で観光宣伝隊として踊りたい」など楽しそうに話してくれました。静寂さの中に、情熱がうかがる郷土芸能です。皆さんも一度参加してみませんか。

七万石踊りに興味がある人や参加してみたい人は山口節子さん（☎④4103）へ。